

平成28年度「チャレンジテスト1・2年」検証シート

学校名 **大阪市立夕陽丘中学校**

実施日 平成29年1月12日(木)

【第1学年】

生徒数(人) 140

平均点(点)

	国語	数学	英語
学校	72.8	60.8	67.6
大阪市	67.0	50.6	60.8
大阪府	68.3	52.5	62.7

平均無解答率(%)

	国語	数学	英語
学校	1.8	3.8	3.3
大阪市	3.6	6.2	5.0
大阪府	3.4	6.1	5.1

結果の概要

大阪府の平均点と比較し、国語は4.5pt、数学は8.3pt、英語は4.9pt高かった。また、3教科とも、学習指導要領の領域別・評価の観点別・問題形式別の平均点が大阪府の平均点より高い状況である。
平均無解答率は3教科とも大阪府の平均より大幅に下回っていて、積極的に課題に取り組む姿勢がうかがえる。

成果と今後取り組むべき課題

数学では、正答率が3割未満の生徒の割合が12.4%いる。そのため、今まで実施してきた習熟度別少人数指導やICTを活用した授業など、個に応じた指導方法の工夫をより一層図り、基礎・基本の定着を徹底させることが必要である。
また、自分の意見を発表したり、互いに考えを深めあったりする場面を取り入れた授業づくりを研究していくことが課題である。

【第2学年】

生徒数(人) 153

平均点(点)

	国語	社会B	数学	理科A	英語
学校	64.3	52.8	55.2	70.2	62.4
大阪市	56.9	46.3	49.6	59.3	51.3
大阪府	58.1	45.1	51.3	60.2	53.3

平均無解答率(%)

	国語	社会B	数学	理科A	英語
学校	6.2	8.9	12.5	4.0	5.9
大阪市	6.9	9.6	13.0	5.9	7.2
大阪府	6.3	10.1	12.6	5.8	6.8

結果の概要

大阪府の平均点と比較し、国語は6.2pt、社会は7.7pt、数学は3.9pt、理科は10.0pt、英語は9.1pt高かった。数学がやや苦手傾向であると思われる。また、数学の記述式の正答率が大阪府平均と同じ数値であった。それ以外は、どの教科も学習指導要領の領域別・評価の観点別・問題形式別の平均点が大阪府の平均点より高い状況である。
平均無解答率は5教科とも大阪府の平均より下回っている。

成果と今後取り組むべき課題

数学の記述式の正答率が、大阪府平均と同じ数値であったことから、基礎・基本の定着はできているものの、数学的な視点で物事をとらえ、説明したり、表現したりする力を育てていく必要がある。
今後も引き続き、基礎・基本の定着を徹底させるとともに、ICT機器を活用するなどして、自分の意見を発表したり、互いに考えを深めあったりする場面を取り入れた授業づくりを研究していくことが課題である。